

令和4年度第1回向日市歴史的風致維持向上協議会 議事要点録

- 日 時 令和5年2月15日（水）午後3時から4時30分まで
- 場 所 向日市文化資料館 研修室
- 出席者
 - （委員）高木会長、神吉副会長、杉本委員、阿部委員、西川委員、稲本委員、六人部委員、今井委員、森委員、森田委員（代理）、清水委員、水上委員、福岡委員、清水委員
 - （オブザーバー）近畿地方整備局建政部計画管理課 河野課長（代理）
京都府政策企画部地域政策室 西田参事
 - （事務局・説明員等）
ふるさと創生推進部 鈴木部長
企画広報課 松石主席課長兼企画広報課長、山中主席係長、山口主任
建設部 都市計画課 今井課長
教育部 文化財調査事務所 渡辺所長、文化資料館 玉城館長
- その他出席者
傍聴者なし
- 会議概要
 - 1 部長あいさつ
 - 2 議事内容
 - （1）向日市歴史的風致維持向上計画 令和4年度進行管理・評価シートについて
国に提出する予定の進行管理及び評価に係る資料に基づき、事務局から令和4年度実施事業の進捗等について説明を行った。
 - （2）令和5年度実施予定事業の主なものについて
令和5年度実施予定事業の主なものについて事務局から説明を行った。

【意見の要旨】

- （1）向日市歴史的風致維持向上計画 令和4年度進行管理・評価シートについて
- 会 長： 令和4年度進行管理シートについて、意見を交わしていきたい。
- 委 員： 文化財の修理に関することについて、計画策定後、継続的に修理を進められてきたが、まだまだ市内には修理が必要な文化財があると考えている。
令和6年度末に計画終了した後も修理は必要と考えるが、修理が必要な文化財の全体像やその進捗状況などはどのような状況か。
一覧化して計画に掲載するのも良いかと思う。
- 事務局： 修理しているものは指定文化財だけでなく、未指定の文化財も含まれており、毎年、各地区に対し、修理が必要な文化財の聞き取りをしている。
修理が必要な文化財については、委員のご指摘のとおり市内にまだまだあり、以前に調査した時点で約2,000件あった。

加えて、文化財は、日々、老朽化が進んでおり、また、定期的に修理が必要な
ものなど、現実的に全ての文化財を修理することは難しい。

国や府の補助を活用しながら必要性の高いものから計画的に修理を進めてお
り、歴まち計画終了後も継続的に実施していく必要があると考えている。

委 員： 歴まち計画が認定されているということは改めて評価されるべきで、市が実施
している事業も認定都市として十分に実績が伴っていると考えている。

向日市の事業がモデルケースとなり、他に波及することもあり得る。

今年度の評価シートも然り、これまでの成果をもっとアピールした方が良い。

委 員： 以前に学生を引き連れ、史跡長岡宮跡を見学させていただいた。

朝堂院公園、旧上田家住宅ともに案内員の方に非常に丁寧に対応していただ
き、学生も驚いていた。

旧上田家住宅を見学した際、案内員の方から、ギャラリーとして施設内で作品
展示されているというお話をうかがったが、具体的にどのような形で活用されて
いるのか教えていただきたい。

事務局： 向日市は道が狭く、史跡も目立ちにくいため、訪れる方が通り過ぎられるよう
なケースもあり、案内員から積極的に声かけするよう心掛けている。

それぞれの施設には過去に国や府の補助金を活用し作成した14種類のパンフ
レットや映像などを設置しているところ。

旧上田家住宅は内蔵だけでなく、主屋やかまど、離れなどそれぞれ個別に貸し
出ししており、作品展の他に、これまで茶会や餅つき、尺八の演奏会、各種教室
など、地域の方に有効利用しいただいている。

委 員： 案内人の方が自信をもって説明されており、施設自体が非常に有意義に活用さ
れていると感じた。

このような活用実績の部分も評価シートに記載した方が良い。

委 員： 阪急洛西口駅周辺の区画整理が進められているが、物集女、洛西口駅周辺の広
大な市街化調整区域については、今後、開発が進むものと考えている。

開発は進めながらも従来の景観を残す、歴史的風致や過去の土地利用（用水
路、池など）の名残ある形での整備を考えてもらいたい。

事務局： 市街化調整区域の農家は後継者不足等の問題から、地区計画制度のもと土地
区画整理組合が、景観に配慮した土地利用を検討し、整備を進めているところ。

今後においても周辺景観との調和に配慮した土地利用や、農地の集約による営
農環境の保全など、計画的な土地利用を指導していきたいと考えている。

委員： これまでに実施した歴まち事業のまちあるきでも過去の土地利用などについて、実際に見聞きしてきたが、そういった歴史的な背景も将来の土地活用の中で意識してもらいたい。

会長： 歴まち計画策定後、景観や風致について、より深く考えられており、これまでの向日市の印象とはまた異なる印象を発信できている。

竹の径の整備が海外でも発信されている例もあり、文化資料館の寿岳文章の企画展も若い方が来館されるなど、新たな歴史資源の掘り起こしが、ターゲットの広がり要因になっていると考えられる。

（２）令和５年度実施予定事業の主なものについて

事務局： ４月に市長選を控えており、令和５年度当初予算は基本的には経常的な経費となっている。

ご紹介する事業が例年と比較して少ないが、そういった事情があることをご承知いただきたい。

委員： 令和２年に整備された観光交流センターも地域の野菜や特産物が買え、美味しいカフェも入っており、よく利用している。

京都府でも積極的に農産物のアピールをしているので、まちてらすでももっと発信していければ良いと思う。

新しい商品も良いが、今後、地域に根付くような商品やお店が生み出すことができれば、もっと施設として良くなると思う。

会長： 近年、ＪＲ桂川駅や阪急洛西口駅周辺が開発された際に、自治体の境界に説明板が設置されており、土地の成り立ちや歴史などが感じられ、それ自体にもまた一つの面白さがある。

事務局： 阪急洛西口駅にそのような説明板があると承知している。今後、そのような説明板の設置も検討していきたい。

事務局： 市内の公園にはそれぞれの地名の由来や歴史などを紹介するような案内板を整備している。

昨年、整備した物集女城公園にも実際の遺跡につながるようなアプローチをしているところ。